

無三四と帽子とアカペラと — 出版物に見る憲法発布 —

福井純子

はじめに

この日、東京市街では前夜から降り始めた雨が雪に変わった¹⁾。高等中学の校庭は一面の銀世界だったという。中学生たちは前々日、万歳の練習をすませ、「憲法大意」の講義を受けていた²⁾。栃木県会議長は宿屋の女中の手を借りて、生まれてはじめての燕尾服に袖を通していたし、日本橋通油町に住む代言人は祝酒で顔を赤くしていた³⁾。大日本帝国憲法発布の朝である。

この1889年2月11日に発布された憲法に関しては、法制史、政治思想史などの分野において詳細な制定過程の分析や、天皇機関説問題など多年にわたる研究蓄積がある。また発布当時の状況を物語るエピソードとして、憲法発布の意味を理解出来ない庶民が「絹布の法被」と取り違えたとか、知識人までもが条文の中身を検討せずにお祭り騒ぎをしていることに中江兆民が不快感を示した、などと伝えられている。

たしかに憲法発布はお祭り騒ぎの一大イベントであったろう。そのことに異論はない。ただ誰がどのように巻き込まれ、参加したのかということには興味がある。なぜならどれほど企画、演出する意図があったとしても、そこに参加する層が存在しなくてはイベントが成立しないのだから。そこで本稿では錦絵と石版画、書籍といった同時代の出版物を手がかりに、1889年のこのイベントに接近したいと考える。

1. 錦絵と石版画

1) 分類

表1は1889年と1890年の2年間に出版された錦絵と石版画について筆者の目に触れた一覧である。したがって実際に出版されたものの一部と考えていただきたい。

錦絵に関しては、小西四郎『錦絵 幕末明治の歴史10 憲法発布』⁴⁾という先駆的な業績があり、本稿はそれに負うところが大きい。ほかに東京大学史料編纂所、国会図書館、早稲田大学図書館、静岡県立図書館のデータベース、東京大学明治新聞雑誌文庫、横浜開港資料館の所蔵目録⁵⁾、および1998年に開催された展覧会図録『江戸・東京モダン—浮世絵に見る幕末・明治期の世相—』⁶⁾を参考にした。

石版画では『描かれた明治ニッポン～石版画〔リトグラフ〕の時代～』の展覧会図録と解説図録に全面的に依拠した⁷⁾。なおNo.44とNo.52は国会図書館NDL-OPACでは、銅版と記載されていたが石版画と判断した。

表1の錦絵と石版画には新聞や雑誌に掲載されたものも含めたが、そのほとんどが単独で販売されたと考えられる。たとえば三栄堂という印刷所では、憲法発布式場図、観兵式図、二重橋御出門の図の石版密画を予約出版するという広告を出している⁸⁾。ちなみに値段は1葉10銭、予約は2割引だという。また大日本石版会社は、憲法発布式之図、同御行列之図の写真石版を特別上等1円、上等50銭、中等20銭で販売すると宣伝した⁹⁾。表1におさめた石版画も多くは店頭で販売されたものであったろう。また憲法発布御盛典市区飾付写真も販売される予定だったらしい¹⁰⁾。天皇と森文相の写真を買い求める人で、写真店が繁盛しているという記事もある¹¹⁾。写真に関しては現物にたどり着くことはできなかった。

表1 憲法発布関係錦絵・石版画一覧（1889年～1890年）

所蔵先のうち、明治文庫は東京大学明治新聞雑誌文庫、開港資料館は横浜開港資料館、早稲田図は早稲田大学図書館、国会図は国立国会図書館、静岡図は静岡県立中央図書館、川崎Mは川崎市市民ミュージアムの略。なお各館の請求記号を付した。

図版のうち小西は小西四郎『錦絵 幕末明治の歴史10 憲法発布』（講談社、1977年）、早古典籍は早稲田大学図書館古典籍総合データベース、モダンは『江戸・東京モダン—浮世絵に見る幕末・明治期の世相—』（東日本鉄道文化財団、1998年）、国貴画は国会図書館貴重書画像データベース、静岡DLは静岡県立中央図書館デジタル・ライブラリー、リト解説は神戸市立博物館編『描かれた明治ニッポン～石版画〔リトグラフ〕の時代～解説図録』（2002年）、リト図録は『描かれた明治ニッポン～石版画〔リトグラフ〕の時代～展図録』（同展実行委員会、毎日新聞社、2002年）、肖像は『王家の肖像』（神奈川県立歴史博物館、2001年）の略。

なお小西、モダン、リト解説、リト図録の数字は掲載ページ数。

No.	タイトル	画工	印刷者	版元・発行者	発行年月日	所蔵先	図版	備考
	【錦絵 発布式】							
1	憲法発布式之図	楊洲周延		長谷川常治郎	明治22年 2月25日	明治文庫26-4	小西30～31	大判3枚組 憲法授与の場面 身分、役職の短冊
2	憲法発布式之図	井上探景		松木平吉	明治22年 2月	早稲田図 チ5 3941	早古典籍	大判3枚組 憲法入場を待つ 場面か
3	大日本帝国 憲法発布式 場之図	梅堂国政		長谷川園吉	明治22年 2月	開港資料館 Ab1-30-010-00		大判3枚組 憲法到着の場面 屋外の景色が見える
4	大日本帝国 憲法式之図	楊洲周延		辻岡文助	明治22年 2月	早稲田図 チ5 3943	早古典籍	大判3枚組 憲法授与の場面 身分、役職の短冊
5	新皇居於テ 正殿 憲法発布式 之図	松寮吟光		大倉孫兵衛	明治22年 3月14日		小西32～34	大判3枚組 憲法授与の場面 時計は10時30分 を指す
6	大日本憲法 発布式之図	梅堂小国政		福田熊次郎	明治22年 3月	明治文庫26-6	小西28～29	大判3枚組 首相が奉答文を 読む架空の場面 屋外の景色が見える
7	明治廿二年 二月十一日 新皇居正殿 於テ 帝国 憲法発布式 之図	歌川延一		横山良八	明治22年 4月	早稲田図 チ5 3940	早古典籍	大判1枚 憲法授与の場面

8	明治廿二年 二月十一日 憲法発布式 之図	小島勝月		横山良八	明治22年 9月	『明治憲法発布 式典絵画帖』複製 (国会図書館所蔵 323.3-Ke119m)	モダン90	大判3枚組 憲法授与の場面 身分、役職の短 冊、時計は10時 30分を指す
9	帝国万歳 憲法発布略 図	楊洲周延		武井卯之助	明治22年	明治文庫26-7	小西116	大判3枚組 首相が天皇の御 前に進み出る場 面か、屋外の景 色が見える
10	憲法発布式 之図	楊洲周延		綱島亀吉	明治23年	開港資料館 Ab1-40-004-00		大判3枚組 憲法授与の場面 か、身分、役職 の短冊
11	憲法発布式 之図	不詳		石島八重	明治23年	明治文庫26-5、 開港資料館 Ab1-00-031-00		大判3枚組 憲法授与の場面 身分、役職の短 冊、時計は10時 30分を指す
	[錦 絵 風 箏]							
12	憲法発布祝 典西丸下奉 迎之図	鳥根年忠		勝木吉藤	明治20年 (ママ) 2月	早稲田図 チ5 4120	早古典籍	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋 花火があがって いる、観衆
13	憲法発布青 山観兵式真 図	井上探景		大倉孫兵衛	明治22年 1月 (ママ)	『明治憲法発布 式典絵画帖』複製 (国会図書館所蔵 323.3-Ke119m)		大判3枚組 11日青山練兵場 行幸の場面 軍人
14	憲法発布臨 時観兵式 行幸桜田御 出門之真図	松齋吟光		大倉孫兵衛	明治22年 2月18日	明治文庫26-18		大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面
15	憲法発布式 御出門之図	小林幾英		横山国松	明治22年 2月20日	明治文庫26-12		大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面
16	憲法発布御 通箏之図	井上探景		清水文蔵	明治22年 2月	明治文庫26-10		大判3枚組 12日上野行幸途 次銀座煉瓦街の 場面、観衆のな かに帽子を振る 少年
17	憲法式大祭 鳳凰御箏之 図 憲法発布式 後市街御幸 之図	楊洲周延		横山良八	明治22年 2月	明治文庫26-13、 国会図書館寄別7-3- 1-6	国貴画	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋 花火があがって いる、観衆のな かに帽子を振る 少年

18	憲法発布式 桜田之景	梅堂小国政		福田熊次郎	明治22年 2月	明治文庫26-14	小西38~39	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸途次の場面 観衆、山車
19	奉祝大典日 本橋之図	小林幾英		長谷川園吉	明治22年 2月	明治文庫26-20、 早稲田図	早古典籍	大判3枚組 12日上野行幸途 次日本橋の場面、 観衆、山車、緋門
20	憲法発布式 祝祭之図	楊洲周延		荒井喜三郎	明治22年 3月1日	明治文庫26-15		大判3枚組 行幸途次の場面 山車
21	憲法発布鳳 輦御臨幸図	東洲勝月		小林鉄次郎	明治22年 3月7日	明治文庫26-17、 静岡図 K951-108-49-(33)	静岡 DL	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋
22	憲法発布鳳 輦還幸	梅寿国利		波多野常定	明治22年 3月19日	個人	モダン90	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸帰途の場面 背景に二重橋 花火があがって いる、観衆、山 車
23	明治廿二年 二月十一日 帝国憲法発 布臨時親 兵式行幸皇 居御出門之 図	歌川延一		横山良八	明治22年 4月	早稲田図 チ5 3939	早古典籍	大判1枚 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋 観衆
24	憲法発布式 鳳輦之図	長谷川竹葉		井上茂兵衛	明治22年 4月	早稲田図 チ5 3942	早古典籍	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋
25	憲法発布新 皇居二重橋 御出門之図	楊洲周延		横山国松	明治22年 6月	早稲田図 文庫10 8431、 『明治憲法発布 式典絵画帖』 (国会図書館所蔵 323.3-Ke119m)	早古典籍 3枚組のうち 右の1枚	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋
26	憲法祭御発 輦之図	小林幾英		江川八左衛門	明治22年	明治文庫26-11	小西26	1枚 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋
27	宮城御発輦 (ママ)之図	梅堂小国政		荒川藤兵衛	明治22年	明治文庫26-8		大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋 観衆のなかに帽 子を振る少年、 山車

28	憲法発布 宮城二重橋 御出門之図	楊洲周延		大倉四郎兵衛	明治22年	明治文庫26-9	小西26~27	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋
29	鳳凰車 皇 居御発車ノ 図	楊洲周延		石川千賀?	明治22年		小西115	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発時、馬 車に乗り込む場 面
30	二重橋御出 行之図	楊洲周延			明治22年 頃		小西116	大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋
31	憲法発布鳳 凰鞞御臨幸 之図	東洲勝月		植葉周平	明治23年 4月	明治文庫26-16		大判3枚組 11日青山練兵場 行幸出発の場面 背景に二重橋 観衆のなかに帽 子を振る少年
	[錦 絵 祝 祭]							
32	大日本東京 吾妻橋真図 憲法発布式 大祭之図	小林幾英		福田熊次郎	明治22年 2月5日 (ママ)		個人	モダン91、 小西117 小西本では 画工不詳だ が、モダン では幾英
33	憲法発布式 祝祭図	小林幾英		小林鉄次郎	明治22年 2月18日	明治文庫 (9枚の内6枚) 26-22(中央3枚)、 23(右3枚)	小西42~43	大判9枚組 山車、緑門 花火があがって いる、中央3枚 には発布式図と 鳳鞞図
34	憲法発布祝 典之賑ひ	歌川国貞・ 梅堂小国政		小森守次郎	明治22年 2月20日	明治文庫26-24	小西35~37	大判3枚組 金棒、警固、手 子舞姿の沢村源 之助、中村福助、 市川団十郎、尾 上菊五郎、市川 左団次、中村芝 翫、背景に二重 橋をわたる鳳鞞 と観衆、山車
35	憲法発布上 野賑	東洲勝月		佐脇金次郎	明治22年 3月	明治文庫26-21	小西40~41	大判3枚組 金棒、手子舞、 武者の仮装、山 車、象
36	憲法発布上 野停車場之 図	不詳			明治22年		小西41	大判3枚組 花火があがって いる

	[木版祝祭]							
37	憲法発布式 銀座街祝賀 之図	歌川国松			明治22年 2月11日			『絵入朝野新聞』 号外 銀座絵入朝野新聞 社、朝野新聞 社前、緑門
38	憲法発布東京 市内の賑	不詳		浜田吉五郎	不詳	明治文庫26-25		墨一色刷、4枚 組
	[石版画 発布式]							
39	大日本帝国 憲法発布式 之図	—	生巧館	—	明治22年 2月11日	黒船館 黒仮46、 明治文庫26-1	1)解説294	『毎日新聞』 第5447号附録 憲法授与の場面
40	憲法発布式 之図	孤芳			明治22年 2月11日			『朝野新聞』号外 憲法授与の場面
41	無題（憲法 発布式図）	—			明治22年 2月11日			『時事新報』 憲法到着の場面
42	憲法発布御 式場之図	田村米造	田村米造	田村米造	明治22年 2月21日	黒船館 黒837	1)解説293 肖像122	売捌熊沢喜太郎 多色石版 憲法授与の場面
43	大日本帝国 憲法発布式 之図	—	矢島智三郎	矢島智三郎	明治22年 2月20日	黒船館 黒858	1)解説294 肖像122	多色石版 憲法授与の場面
44	憲法発布式 之図	荒川藤兵衛	田中吉五郎	荒川藤兵衛	明治22年 3月2日	『錦絵帖』（国会 図書館古典籍資 料室寄別-7-5- 1-5）		国会図書館 NDL-OPACに は銅版とある 憲法到着の場面
45	大日本帝国 憲法発布 正式之図	清水三寿	文栄社石版 部伊藤湧吉	文敬堂	明治22年 3月25日	明治文庫26-2		勅語奉読の場 面？
46	大日本帝国 憲法発布式 場之図	—	—	—	明治22年 4月10日	明治文庫26-3		『風俗画報』第 3号
47	憲法発布御 盛典之図 憲法発布式 之図	秋松芳太郎	玄々堂・ 松田敦朝	亀尾直次郎	明治23年 4月14日		個人	1)解説294 多色石版
48	憲法発布御 盛典之図 内閣御祝典 之図	秋松芳太郎	玄々堂・ 松田敦朝	亀尾直次郎	明治23年 4月14日		個人	1)解説294 多色石版
49	憲法発布御 盛典之図 南留御祝典 之図	村上矢八	玄々堂・ 松田敦朝	亀尾直次郎	明治23年 4月14日		個人	1)解説294 多色石版
50	憲法発布御 盛典之図 豊明殿御祝 典之図	秋松芳太郎	玄々堂・ 松田敦朝	亀尾直次郎	明治23年 4月14日		個人	1)図録225、 1)解説294 多色石版

51	憲法発布御盛典之図 北留御祝典之図	秋松芳太郎	玄々堂・ 松田敦朝	亀尾直次郎	明治23年 4月14日	個人	リ解説295	多色石版
	[石版画 鳳箏]							
52	新皇居憲法 発布式付御 出門之図	—	清水久兵衛	清水久兵衛	明治22年 2月21日	「錦絵帖」(国会 図書館古典籍資 料室 寄別-7-5- 1-5)		国会図書館 NDL-OPAC に は銅版とある
53	大日本帝国 憲法発布式 観兵後御臨 幸鳳凰車真 図	不詳		藪崎芳次郎	明治22年 3月11日	明治文庫26-19		彩色石版画 背景に二重橋
54	憲法発布都 下賑	熊沢喜太郎	田村米造	熊沢喜太郎	明治22年 3月18日	川崎 M 川-岡-B-2-4、 早稲田図	リ解説294、 早古典籍	石版筆彩
	[石版画 祝祭]							
55	憲法発布大 典二附東京 新橋銘伎手 古舞之図 吉田屋山登	岡村政子 酒井鈴子 (石画)	浦野芳次郎	信陽堂・ 岡村竹四郎	明治22年 3月20日	黒船館	リ解説109、 リ図録95	売捌熊沢喜太郎 石版筆彩

さてここで行論に必要な限りで、憲法発布に伴う一連の儀式のタイムテーブルを整理しておこう¹²⁾。

11日

10時 正殿での発布式 首相以下入場

10時40分 天皇以下入場

11時前 退場

13時15分 青山練兵場行幸のため出発

17時 還御

19時 豊明殿、南溜の間、北溜の間にて大宴会

22時 大宴会終了

22時15分 正殿にて舞楽天覧

23時 竹の間、豊明殿にて立食の宴

12日

13時30分 上野公園行幸のため出発 華族会館で休憩

16時40分 還御

このうち11日のスケジュールについては、すでに2月3日付『官報』が、宮内省告示第4号「憲法発布式次第」「青山練兵場観兵式 臨御次第」を発表していた。それでは実際に描かれたのはどのような場面だったのか。

表1の分類はつぎのとおりである。大きく錦絵と石版画に分けたが、2点だけ墨刷りの木版画がある(No.37、No.38)。よって錦絵、木版画、石版画に大別した。さらに内容によって発布式、鳳輦、祝祭の3種類に分類した。すなわち〔錦絵 発布式〕〔錦絵 鳳輦〕〔錦絵 祝祭〕〔木版画 祝祭〕〔石版画 発布式〕〔石版画 鳳輦〕〔石版画 祝祭〕の7項目である。このうち〔錦絵 鳳輦〕には、観衆や山車がともに描かれているものも含め、祝祭と区別した。また〔石版画 発布式〕には、豊明殿、南溜の間、北溜の間での宴会図も含めた。したがって項目内でのブレがある。

ついで項目内で発行年月日順に配列した。またNo.12、No.13のように日付の疑わしいものもあるが、そのままとした。本稿に図版をすべて掲載することは難しいので、アクセスできる図書やデータベースを記載した。

2) 画工の情報源

なお表1に入れていない新聞掲載の図版がある。『郵便報知新聞』2月13日付から17日付までの祝祭記事に付したつぎのような図版である。

13日付第2面

「上野公園に御臨幸の景況」

「市中緑門飾付の図」

- 第1 杉の青葉の鳥居（新橋）
- 第2 股木門及び緑門（銀座通）
- 第3 緑門（京橋の南北）
- 第4 紅白のアーチ形門（日本橋通4丁目）

14日付第2面

「市中飾付の図」

- 第1 緑門（銀座通）
- 第2 汽船東京丸（江戸橋郵船会社倉庫）
- 第3 紅白木綿のアーチ形門（新大橋）

15日付第1面

「市中飾付の図」

- 第1 鉄の釣り橋及び大鯛（日本橋）
- 第2 アーチ形門（浅草橋）
- 第3 アーチ形門（永代橋）

15日付第2面

「国儀式御馬車の図」

17日付第1面

「上野公園賑ひの図」

これらはいずれも画工や東京市民、見物に上京してきた大衆が実際に見ることのできた光景である¹³⁾。もちろんひとりですべてを見ることは叶わないのであるが、いっぽう宮殿の内側で行われた儀式と宴会、練兵場での観兵式、鳳輦の内側、華族会館での休憩を実際に目撃できるのは限られた参列者、拝謁者である。こちらの光景を画工たちはどのようにして描いたのだろうか。考えられるのは新聞記事や参列を許された記者たちからの聞き取りであろう。

発布式では、前述の『官報』で事前に参列者を知ることができたし、『朝野新聞』2月3日付号外は、その式次第を図入りで紹介しており、そこでは参列者

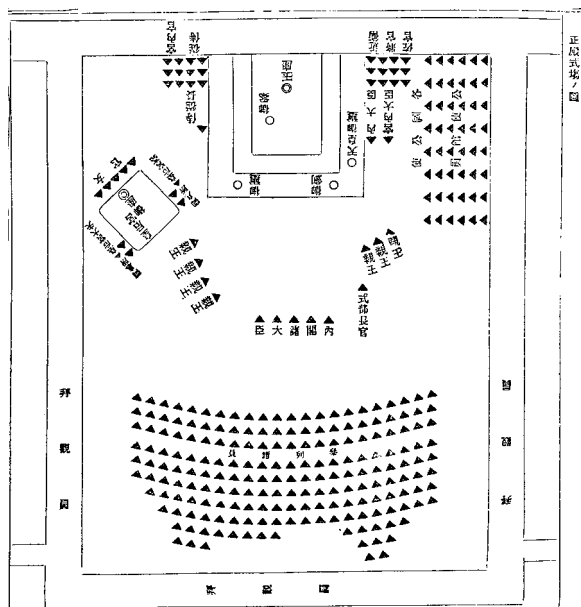


図1 正殿式場ノ図（『朝野新聞』1889年2月3日付号外）

の立ち位置、剣璽と御璽、天皇御璽の位置まで描かれている（図1）。だがこの2月3日付号外図と『官報』の式次第との間には齟齬がある。それは『官報』式次第では侍従が剣璽と天皇御璽を奉じ、内大臣が憲法を納めた筥を奉じて入場することになっている。それが2月3日付号外図では憲法を納めた筥が天皇御璽として示されているのである。なぜ図1の天皇御璽を、憲法を納めた筥と見なしたのかというと、天皇御璽が内大臣の右隣に位置しているからである。実際は天皇の左手奥に憲法を納めた筥が、天皇の左手前方に剣璽、右手前方に天皇御璽が置かれたのではなかっただろうか。

また正殿内の調度については『朝野新聞』2月11日付号外が報じている。煩雑だが、正殿内部の様子について画工が知ることでできた情報を整理してみよう。

正殿の広さは東西14、5間、南北8、9間

天井は古代模様極彩色の合天井

扉は黒塗縁で、腰に鳳凰の丸と椿の花を高蒔絵に彫り上げる

四方に4基の玻璃製の灯台を置く

周囲に羅綺葡萄色の御帳を掛け渡す

高御座は楕円形の椅子

菊花の紋章を金糸で縫い上げた御帳を掲げる

玉座の左方に各国公使・公使館員

玉座正面に大臣・枢密顧問官・親任官 その後方に勅任官・華族

玉座右側に皇后

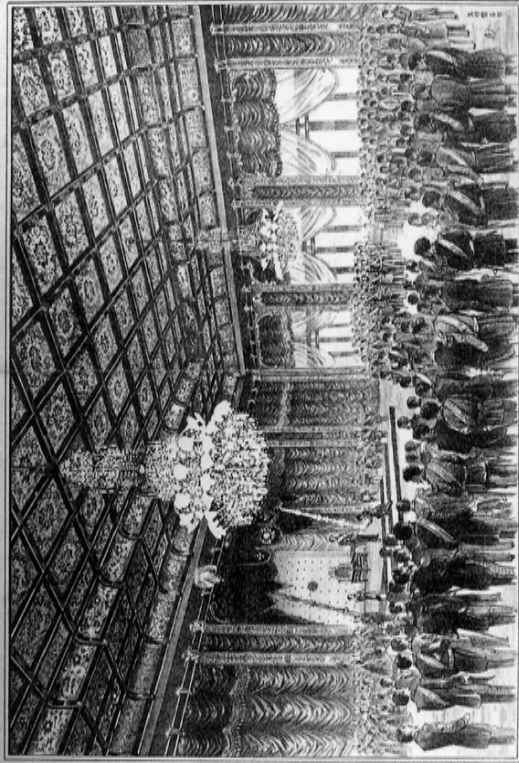
このうち正殿の調度に関しては、『皇室建築 内匠寮の人と作品』にモノクロの図版だが、宮内庁総務課所蔵の写真が収められている¹⁴⁾。この写真と比べると、「玻璃製の灯台」とは豪華なシャンデリアのことであろうし、「楕円形の椅子」の「楕円形」は、背もたれ部分である。椅子の後には「菊花の紋章を金糸で縫い上げた御帳」がある。菊花に関しては柱隠にも用いられている¹⁵⁾。

3) 発布式

つぎに表1の〔錦絵 発布式〕〔石版画 発布式〕について検討してみよう。最も多く描かれているのは天皇が黒田首相に憲法を授与している場面である。参列者の身分や役職を短冊で示している錦絵もある(No.1、4、8、10、11)。

そのほかNo.2は憲法が描かれていないので、入場を待つ場面だと考えた。No.3、No.41、No.44は玉座周辺の剣璽、御璽、憲法を納めた筥の3点セットが揃っているので到着した場面と見なした。もっともこの玉座3点セットがまったく描かれていないものも珍しくない(No.1、4、5、7、8、図2 = 39、42、43)。

録附聞新日毎



圖之式布發法憲國帝本日大

明治二十五年二月十一日 號四十四百七十第 報日新 號一第地國法憲成由由美 日新新聞社

图2 No.39 大日本帝国憲法發布式之図 (東京大学明治新聞雜誌文庫所蔵)

東京帝國大學
明治新聞雜誌

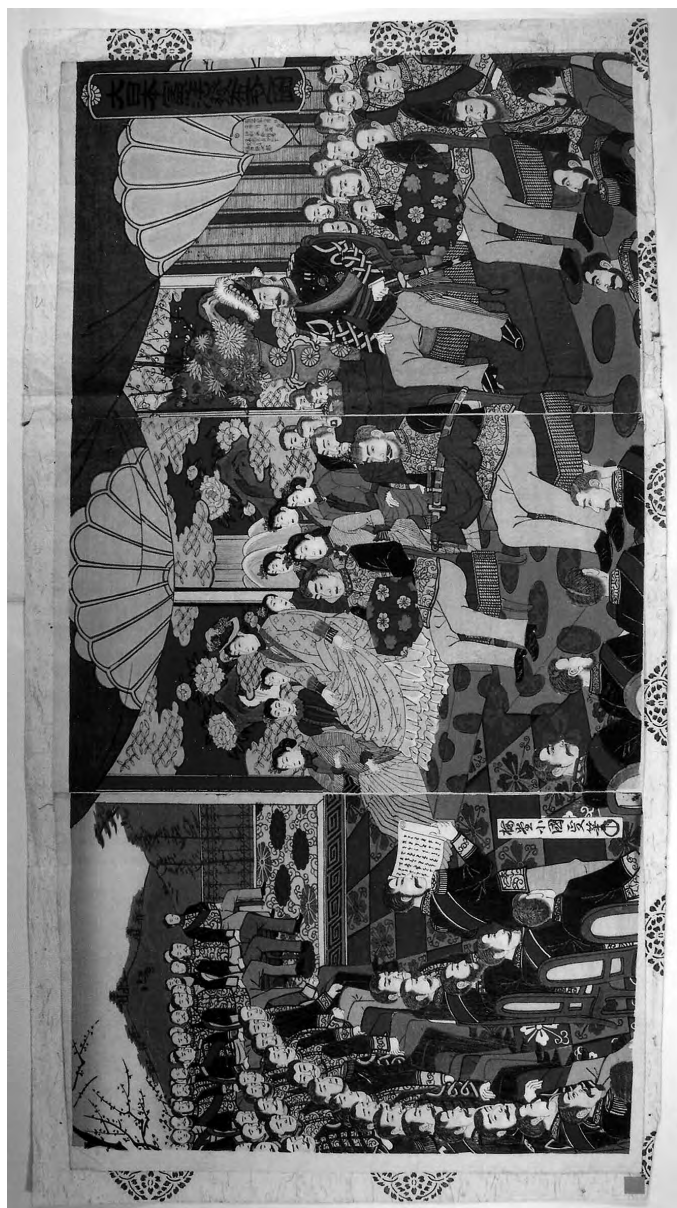


图3 No.6 大日本帝国憲法發布式之図 (東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵)



图 4 No.11 憲法發布式ノ図 (東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵)

錦絵のなかでシャンデリアを描いている数少ない作品のひとつである No.5 にも 3 点セットがないのは面白い。

調度に関しては概して石版画が忠実に描いている。これは錦絵と石版画との性格の違いなのかもしれない。石版画が写真の代用といった性格を持つことが多いのに対し、錦絵には実景よりも、読者が見たい光景を描くという側面がある。〔錦絵 発布式〕のなかには、実際には行われなかった首相が奉答文を読む場面や (図 3 = No.6)、屋外の景色を描いたものもある (No.3、6、9)。そしてこれは架空の場面というより、『官報』式次第の情報を鵜呑みにした結果だと思えるのだが、No.5、No.8、No.11 (図 4) ではいずれも時計の針が 10 時 30 分をさしている。上述のように、天皇が正殿に入場したのは 10 時 40 分だった。画工たちは 10 時に首相以下が入場するならば、10 時 30 分ころには憲法が授与されると考えたのではなかったか。この時計を描いている 3 点は錦絵のなかでも読者に与える情報量が多い作品である。石版画が人気を博しはじめたこの時期、錦絵のなかにも、芝居の一場面のようなステロタイプの構図ではなく、石版画に負けない情報を有し、より美しい作品を求める読者が誕生していたと考えられる。

4) 鳳輦

11 日の鹵簿については、『都新聞』 2 月 10 日付第 2 面が図入りで掲載している (図 5)。また上述の『郵便報知新聞』 2 月 15 日付第 2 面では、掲載図の誤りを訂正しながら説明している。その情報をまとめてみるとつぎのようになる。

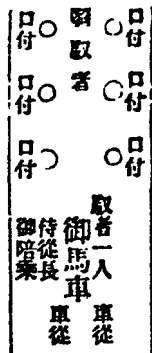


図 5 11日鳳輦

(『都新聞』 1889年 2月10日付第 2面)

天皇、皇后が乗車する馬車の屋根に鳳

鳳の飾りが付いている

馬車は2列6頭立て

この馬車には侍従長が陪乗する

馬の毛色はすべて鹿毛であり、先頭の御者が乗ったのは左手の馬

〔錦絵 鳳輦〕〔石版画 鳳輦〕は画工が実際に見ることのできた部分とできなかった部分がある。見ることはできたのは鳳輦の形と馬、御者の姿形である。鳳輦の内側は見ることはできない。車内の天皇、皇后、侍従長の座る位置、衣装は異なっている。それに対して、馬の毛色は別として、2列6頭立てであることはほとんどぶれていないし、御者達の衣装もよく似通っている。

ところで〔石版画 鳳輦〕が鳳輦のみを描いているのに対し、〔錦絵 鳳輦〕では沿道の観衆や山車、花火などが描かれているものが少なくない（No.12、16、17、18、19、20、22、23、27、31）。そこに目を引く図がある。No.16、17、27、31（図6）の4点には帽子を振る少年の姿が描かれているのである。はたしてこれは実景なのだろうか。

『朝野新聞』『絵入朝野新聞』は、憲法発布の祝典をなんとか盛り上げようと読者を煽っていた。2月3日付『朝野新聞』は、今年の紀元節を通常の祝日同様に心得、「お附き合（ママ）に日旗を門前に掲げたる」程度に「冷然」と過ごしてはならないと書いた。そのようなことをすれば日本人民の政治思想の低さが諸外国の「物笑の種」となるだろう。帝室や政府の熱心な取り組みに引き替え、民間が少しも盛り上がらないのは記者には「解せぬ所」だと嘆いてみせるのである¹⁶⁾。その前日にも、今回の憲法発布にあたっては欧米にならって「熱心な祝意を表示して花々敷国家の慶事を祝し度」きものと述べていた¹⁷⁾。これは前年の皇居移転の際、「中等以下の社会」が国旗を掲げず冷淡に見送ったことが、「痛く」外国人の攻撃を受けたという苦い経験から学んだ対応らしい¹⁸⁾。

その甲斐あってというべきか、12日の上野行幸の模様を伝える記事では、市民がどれほど祝意を表したのかを詳細に記していた¹⁹⁾。すなわち、沿道では小

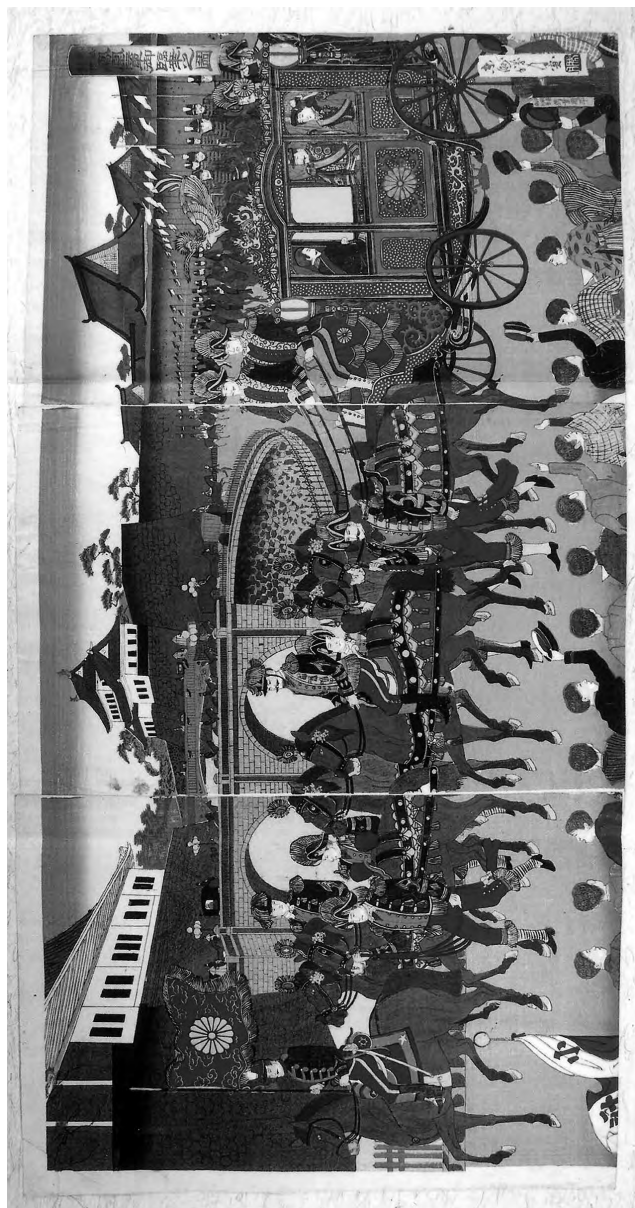


图 6 No.31 憲法発布鳳凰御臨幸之図 (東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵)

学生が整列して唱歌を歌い、鳳輦には「陛下万歳」、親王、大隈、伊藤へは名前を冠して万歳を叫び、公園の奉迎所では府庁吏員らが帽子を振って「両陛下万歳」と大呼したというのである。そうして「臣民が帽を振り手を拍ち万歳を唱へ祝意を表したるは今回が始め」てだといひ、皇室に対する「忠情」が更に深まるだろうと結んでいる。管見の限りでは、沿道で帽子を振ったという記事を他紙で見つけることはできなかった。だからといって実際には帽子を振って鳳輦を歓迎した者はいなかった、『朝野新聞』『絵入朝野新聞』の幻想だと決めつけるつもりはない。ただ錦絵のなかで帽子を振っている少年たちの姿があまりにも近代的な国民に見えてしまい、前年までの「中等以下の社会」とのギャップに驚かされるのである。

5) 祝祭

憲法発布関連錦絵のなかでもっとも錦絵らしいのは〔錦絵 祝祭〕だろう。なかでも No.34 と No.35 はお祭り気分にあふれている。国貞は人気絶頂の団菊左と沢村源之助、中村福助、中村芝翫を登場させ、6人の役者に金棒、警固、手子舞の姿をさせて描いた(図7 = No.34)。この仮装をしたのは芸者衆であるから、これを実景と見ることはできない(図8 = No.35, No.55)。興味深いのは団十郎に山高帽をかぶせ、着物の紋を菊に日の丸のぶちがいとしていることである。いかにも、という姿である。新富座では11日、団十郎をはじめ役者一同がフロックコートもしくは羽織袴で奉迎することになっていた²⁰⁾。

〔錦絵 鳳輦〕や No.33 にはさまざまな山車、踊屋台、緑門が描かれている。これらは企業や各町内が憲法発布を盛り上げるために急遽準備したものである。はたしてどのようにして進められたのだろうか。

さきに『朝野新聞』『絵入朝野新聞』が祝典を盛り上げようとしていたと書いたが、より庶民的な読者をもつ『都新聞』でさえ、7日、8日、10日の3回にわたって論説で「憲法発布の当日ハ成丈け賑かにすべし」と読者に呼びかけていた²¹⁾。新聞だけでなく、東京府知事は論達を出し、各区役所が働きかけ、直



図7 No.34 憲法發布祝典之賑ひ (東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵)

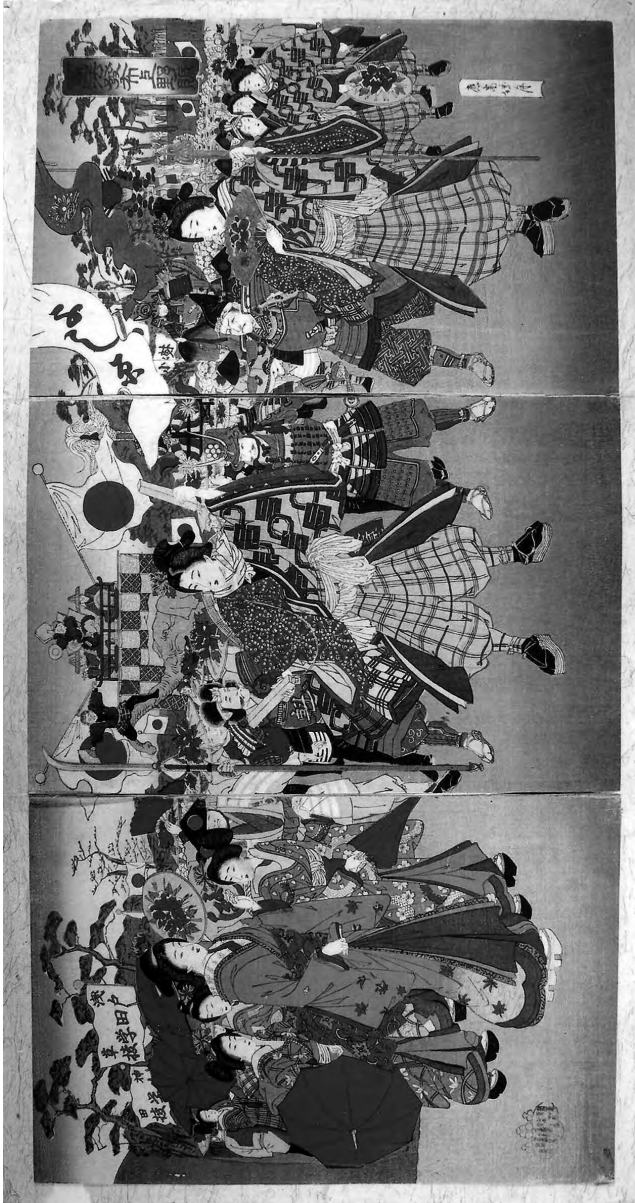


図8 No.35 憲法発布上野賑 (東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵)

接には地元有力者が住民に圧力をかけた。

たとえば神田区今川小路近辺では、角田真平、堀口昇、陸実らの有力者が地主、差配人、若衆頭を集めてつぎのような祝賀計画を伝えた。各戸に日の丸の旗を掲げ、3本の山車を引出し、国旗と「宝祚万歳」「国家幸福」と大書した五色の旗を翻し、世話人は花笠をかぶり羽織袴を着け、若者は「憲法祭」と染め抜いた半纏を着けて山車の前後を守り、二重橋まで押し出して祝意を表そうというのである²²⁾。この一件が報じられたのは2月5日付である。その後、6日、7日の2日続きで内神田の各町内が協議し、それぞれの山車が決められた²³⁾。すなわち今川小路2丁目、北神保町、三崎町は花山車、鍋町と一ツ橋通町も同じく花山車、小川町、表神保町、猿楽町が猿田彦、佐柄木町、多町、通新石町、須田町、連雀町が神武天皇、鍛冶町が小鍛冶、川合新石町が戸隠し、乗物町が武蔵野、大和町が橋弁慶の山車、さらに通新石町へ大鳥居を建て、萬世橋には神田明神祭礼同様、棧敷をしつらえ、有志が寄付した餅と蜜柑を撒くというのである。もっともこの山車は直前になって変更される²⁴⁾。とはいえ、発布前日の報道では、麴町区13本、日本橋区15本、神田区12本、京橋区16本、芝区5本、麻布区4本、赤坂区3本、四谷区4本、牛込区11本、小石川区1本、浅草区10本、深川区4本の山車を繰り出すことになっていた²⁵⁾。このため東京市中の提灯屋、呉服屋、花火の製造師とならんで山車屋も注文を断るほどの忙しさだと噂された²⁶⁾。祝祭の準備は山車だけではない。今川小路の有力者のひとり角田真平は、府下代言人が催す祝宴に向けてつぎのような「軍歌」を作っている²⁷⁾。

飛散る弾丸ハ雨あられ きらめく劔はいなづまよ
 かばねハ積て山を為し 血しほハ杵を浮かべたる
 其ありさまハ末ついに 民の権利を得し国ハ
 海山隔つ外国ぞ こハ夫れらとハ事かはり
 二千と五百四十九の 年を重て天地と
 かはる事なき君ケ代に 逢ふ民草の色まして

そよとも風の動かさず 露の恵にもるゝなく
 万よろずの法のりの源をの 憲法をのこゝに浦安く
 名に負ふ御国の礎と 確定さだまりしこそめでたけれ

依田学海は日記に、小学生が神田道で奉迎する際、この角田作の憲法発布の歌を歌うことになっていると記している²⁸⁾。どのようなメロディーにのせて歌ったのか、知りたいところだ。沿道では小学生、師範学校生、音楽学校生たちが「君が代」や「紀元節」「憲法発布の頌」を歌ったという²⁹⁾。「君が代」は現行のものが街頭で歌われたのか、それとも小学唱歌だったのか。どの楽曲にせよ伴奏のないアカベラで歌われたに違いない。馬車の車輪の音が響くなか、歌声はどこまで届いたのだろうか。

と、ここまででは祝祭を煽動する側である。実際に山車をひく住民たちというのと、冒頭にも書いたように「絹布の法被」のエピソードが有名だ。ただ今回新聞を調査した所では「絹布のハッピー」「絹布の法被」と記しているのは『時事新報』だけらしい³⁰⁾。『都新聞』は論説のなかで、憲法とは「御政事相談の手續き次第のやうな者」であって「宮本無三四流とか塚原ト伝流とか云ふ剣法」とは違うのだと解説している³¹⁾。なるほど草双紙や講談になじんだ耳には、「けんぼう」という音は宮本無三四の「剣法」を想像させたことだろう。

また山田美妙は憲法発布のお祭り騒ぎを描いた小説「国の花」のなかで、祝典に参加するからと大家に呼び出された店子たちのあわてぶりをつぎのようにスケッチしている³²⁾。

「いや、なるほど。憲法さまの御祭りでげエしやう。実は私も…その、何…新聞で見ましたからな」と知ったかぶりをした店子。

「そんなら憲法さまとハ何だ」と大家が念を押したなら、「その何でげさアね、天朝さまの名が変ハツタン」と店子は苦しい答え。

2. 書籍

1) 解釈ブーム

さて『都新聞』は「天朝さま」が「憲法さま」に変わったというような読者を対象に、「婦女子の御方にも分り易き様」2月16日から、「通俗帝国憲法解釈」の連載をはじめ。東京の新聞各紙は明治政治史研究会編『憲法解釈資料』³³⁾にあるように、発布以降、逐条解釈の花盛りとなる。

『東京日日新聞』	2月13日～3月14日「大日本帝国憲法解釈」
『郵便報知新聞』	2月14日朝版～23日朝版、28日夕版～3月26日 夕版2月14日のみ「憲法解説」、以後「憲法私解」
『朝野新聞』	2月14日～4月14日町田忠治「憲法評論」
『絵入朝野新聞』	2月21日～5月3日 「通俗憲法解釈」「憲法」「憲法正条」
『時事新報』	2月14日～4月3日桑田豹三「帝国憲法義解」
『毎日新聞』	2月13日～?「憲法論」
『読売新聞』	2月19日～高田早苗「憲法正条」
『東京朝日新聞』	2月14日～3月19日「通俗憲法注釈」
『都新聞』	2月16日～3月23日「通俗帝国憲法解釈」(未完)

新聞だけではない。雑誌も『東京輿論新誌』『国民之友』といった一般読者向けの雑誌から、法学書生向けの『国家学会雑誌』『中外法律集誌』『明法雑誌』『法律政治講義録』(明治法律学校講法会)『法律応用雑誌』まで、期間の長短はあるが憲法解釈を連載する。さらに『憲法雑誌』『憲法新誌』など、憲法を専門に扱う雑誌まで創刊される始末だ³⁴⁾。なかでも『憲法雑誌』は、北は北海道から南は鹿児島まで全国に販路を広げている(表2)。

このよう解釈ブームは書籍にも及ぶ。表3は1889年から90年にかけて出版さ

れた憲法関係文献のうち国会図書館所蔵分を中心にまとめた一覧である。まず大きく発行月の古いものから並べ、そのなかでタイトルの五十音順に配列した。大半は近代デジタルライブラリーで公開されている。No.114と157は前掲『憲法解釈資料』に転載されている。またNo.14、17、29、50、52、54、145、146、162はNACSIS Webcatに公開されており、諸大学、研究機関の所蔵状況が分る。国立公文書館にも所蔵されているのはNo.70、86、114、115、116、118、121、126、129、131、145、151、152、153、155、159である。このほかNo.22、23、41、76は東京大学明治新聞雑誌文庫にも所蔵されている。

ほとんどの書籍は単行書として出版されたものだが、なかには新聞、雑誌の号外や附録をまとめたというものもある。No.14、22、23、41は新聞の附録、号外であり、No.16、33、50、59、76は雑誌の号外、附録である。内容はといえば、注釈書だけでなく、憲法と関連法令をまとめただけのものや、振仮名をうっているだけの簡略なものも多い。頁数も少ないのは9頁、多いものは500頁を越すものまで実に多様であるし、版元も時習社（No.86）のような法律書専門の書店もあれば、娯楽読物を得意とする駿々堂（No.53）もあるという具合。また出版地に着目するなら東京、大阪、名古屋が多いのだが、福島、甲府、新潟、京都、秋田、熊本、山形、金沢、大垣、丸亀、高岡、津、岩手、横浜、長野、和歌山、千葉と全国に広がっている。新聞広告、雑誌広告を見つけたものについては、備考欄に記載した。この広告に関しては抜け落ちが多いと思う。現段階でチェックできたのはつぎの通りである。新聞広告がうたれたのはNo.36、48（?）、70、80、83、105、114、118、124、145、155、156、159、162、164、167。雑誌で紹介されたり広告が出たのはNo.4、79、80、122、123、168である。そしてNo.177からNo.185までは新聞広告にはあるが、現在所在を掴めないものである。あるいは広告をうっただけで出版されなかった可能性もある。こちらの一覧にも抜け落ちていた書籍があるだろうが、大方の傾向はつかめると考えている。

表2 府県別憲法雑誌売捌き所一覧

No.	道府県	店名・店主名	所在地
1	北海道	常野書房	函館大町8番地
2	青森県	野崎九兵衛	弘前本町
3	茨城県	川又銀蔵	水戸上市泉町2丁目
4		城山堂	茨城倭町
5		柳旦堂	水戸上市泉町
6		糸屋太吉	下館町
7	栃木県	三泉社	足利町
8		木村源太郎	佐野町
9		上原与平治	栃木万町
10	群馬県	中西喜久	前橋曲輪町
11		報知堂	前橋連雀町
12		報知堂支店	相生町
13		柳風舎	高崎中紺屋町
14	埼玉県	岸田屋関太郎	川越連雀町
15		進万堂	熊谷本町
16		文華堂	浦和宿
17		酒井米五郎	大宮郷
18		込田喜久造	小鹿野町
19		平手清竹	川越郭町
20		脩身本社	入間郡谷中村
21		金沢勘次郎	鴻巣駅
22	東京府	日就社	
23		良明堂	
24		東海堂	
25		信文堂	
26		日成堂	
27		巖々堂	
28		文海堂	
29	神奈川県	里見亭次郎	横浜伊勢佐木町2丁目
30		竹川新四郎	横須賀汐留町
31	山梨県	内藤伝右衛門	甲府常盤町
32		柳正堂源太郎	甲府柳町4丁目
33	長野県	西沢喜太郎	長野大門町
34		竹内禎十郎	松本南深志町
35		相場七左衛門	小諸町

36		源泉堂	上田町
37	新潟県	黒目十郎	長岡
38		桜井産作	新潟本町通6番地
39		本田勝吉	高田呉服町
40		樋口屋小左衛門	三条
41		覚張治平	長岡
42	石川県	近田太三郎	金沢区安江町
43	静岡県	広瀬市蔵	静岡江川町6丁目
44		静陵館	静岡呉服町
45		杉本平七	静岡江川町
46		育仲社	藤枝宿
47		山本与十	三島宿
48	愛知県	三輪文次郎	名古屋鉄砲町
49		川瀬代助	名古屋本町3丁目
50		金鯉堂	名古屋
51	三重県	豊住謹次郎	頭領町
52		伊藤善太郎	四日市
53	滋賀県	鳥林伝次郎	大津
54		澤一二郎	大津上京町
55	京都府	中村治兵衛	下京区第5組大文字町
56		大黒屋書店	河原町二条下ル2丁目
57	大阪府	前川善兵衛	南久宝寺町4丁目
58		梅原亀七	備後町4丁目
59		柳原喜兵衛	北久太郎町4丁目
60		平井新聞舗	心齋橋筋
61		日本新会社	岡島支店
62		中村峯雄	瓦町4丁目
63	兵庫県	熊谷幸助	神戸相生町
64		舟井新聞社	神戸
65		朝栄舎	姫路
66	和歌山県	瀬戸吉右衛門支店	和歌山東長町5丁目
67	岡山県	向陽社	岡山
68	広島県	早速舎	広島
69	山口県	白石徳三郎	山口中之市町
70	香川県	清野信七	高松
71	徳島県	三光堂	徳島

72	佐賀県	書籍会社	佐賀
73	長崎県	安中半三郎	長崎尾尾町
74	熊本県	長崎次郎	熊本新町2丁目

75	大分県	山川正三郎	大分
76	鹿児島県	青木静左右衛門	鹿児島島生町

『憲法雑誌』第3号（明治22年3月5日）より作成

表3 1889年～1890年発行憲法関係文献一覧（国会図書館所蔵分）

タイトル末尾の*は国会図書館近代デジタルライブラリーで公開されているもの（2008年1月現在）、#は明治政治史研究会編纂『憲法解釈資料』に転載されているもの、†はNACSIS Webcatで大学等の所在が確認されているもの、◇は国立公文書館に所蔵されているもの、☆は明治新聞雑誌文庫に所蔵されているものを示す。

備考欄の朝野は朝野新聞、絵入は絵入朝野新聞、郵便は郵便報知新聞、時事は時事新報に広告が掲載されていること、掲載紙面は数字を○で囲んで示した。

177以降の書名は新聞広告にはあるが、国会図書館、NACSIS Webcatでヒットしないもの

	出版年	タイトル	著者	出版社	出版地	形態	備考
1	1889-2	憲法*	安斎仙吉編	安斎仙吉	福島県 福島町	83p：18cm	附：議院法、衆議院撰 挙法、会計法、貴族院 令
2	1889-2	憲法提要*	山中兵吉著	山中兵吉	東京	9p：19cm	
3	1889-2	憲法と国民*	高安亀次郎著	東洋社	東京	64p：18cm	
4	1889-2	憲法論。上巻*	代士威著、 吉田熹六訳	集成堂	東京	248、12p：19cm	Dicey, Albert Venn 憲法雑誌第5巻に紹介 朝野2月28日附録
5	1889-2	皇国の華：一名・憲 法発布式実況	初山邦季編	三栄堂	東京	36p：18cm	附：憲法明文
6	1889-2	大日本帝国憲法	黒宮友二郎編	愛知印刷	名古屋	115p：19cm	附：関係諸法律全書
7	1889-2	大日本帝国憲法*	安井秀堅編	磯田伊三郎	名古屋	98、22p：19cm	附：議院法、衆議院議 員撰挙法、衆議院議員 撰挙法附録、 会計法、貴族院令
8	1889-2	大日本帝国憲法*	—	永唱堂	東京	96p：19cm	附：議院法、衆議院議 員撰挙法、会計法、貴 族院令
9	1889-2	大日本帝国憲法*	—	伊藤某	甲府	38p：26cm	附：議院法、衆議院議 員撰挙法、会計法、貴 族院令
10	1889-2	大日本帝国憲法*	加藤政之助編	加藤政之助	東京	71p：18cm	附：議院法、衆議院議 員撰挙法、会計法、貴 族院令
11	1889-2	大日本帝国憲法	福村正義編	桜井書店	新潟	97p：13cm	附：議院法、選挙法
12	1889-2	大日本帝国憲法*	—	須原書店	東京	96p：18cm	附：議院法、衆議院議 員撰挙法、会計法、貴 族院令
13	1889-2	大日本帝国憲法*	竹村常八編	静観堂	名古屋	16p：13cm	

14	1889-2	大日本帝国憲法†	達山齊編	政教社	東京	30p ; 23cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令 『日本人』号外(89年2月18日)
15	1889-2	大日本帝国憲法*	—	東京出版	東京	140p ; 12cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令、皇室典範 朝野2月13日④の広告か
16	1889-2	大日本帝国憲法*	—	東京新報社	東京	75p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令、大赦勅令 『東京新報』第59号附録
17	1889-2	大日本帝国憲法*†	—	博聞社	東京	83p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
18	1889-2	大日本帝国憲法*	—	博聞社	東京	90p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令、皇室典範
19	1889-2	大日本帝国憲法*	岩田静編	藤谷虎三	大阪	27p ; 20cm	
20	1889-2	大日本帝国憲法*	平井益一郎編	又新社	甲府	75p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令、大赦勅令
21	1889-2	大日本帝国憲法*	大木鹿之助編	有真館	京都	28p ; 13cm	
22	1889-2	大日本帝国憲法☆	—	奉天社印刷所	秋田	53丁 ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令 秋田日々新聞1869号～1880号附録 国会図書館所蔵なし
23	1889-2	大日本帝国憲法☆	—	東京朝日新聞社	東京	5p ; 26cm	東京朝日新聞号外 国会図書館所蔵なし
24	1889-2	大日本帝国憲法*	高島文吉著	一誠社	名古屋	84p ; 18cm	附：関係諸法令全書
25	1889-2	大日本帝国憲法：振仮名付*	正木久太郎編	楽善堂	熊本	22p ; 18cm	
26	1889-2	大日本帝国憲法：傍訓*	香川一秀編	積善館	大阪	81p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
27	1889-2	大日本帝国憲法：傍訓*	又間安次郎編	田中宋榮堂	大阪	43、16p ; 18cm	附：諸法令
28	1889-2	大日本帝国憲法：傍訓*	竹添源太郎編	博愛堂	東京	p11-81 ; 18cm	附：議院法、會計法、衆議院議員撰拳法、貴族院令
29	1889-2	大日本帝国憲法：傍訓*†	相馬政徳編	博文閣	名古屋	96p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、撰拳法附録(撰拳区及人員)、貴族院令

30	1889-2	大日本帝国憲法：傍訓*	藤谷虎三編	藤谷虎三	大阪	65p：17cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、会計法、貴族院令
31	1889-2	大日本帝国憲法及附属諸法典：鼈頭釈義*	三輪鑿藏編	吉岡平助	大阪	115p：19cm	
32	1889-2	大日本帝国憲法及附属法*	江馬耕太郎編	江馬耕太郎	山形	66p：20cm	
33	1889-2	大日本帝国憲法義解*	—	英吉利法律学校内法理精華社	東京	67p：19cm	『法理精華』第3号附録
34	1889-2	大日本帝国憲法義解*	志方鍛著	松村九兵衛	大阪	144、12、108p：19cm	附：皇室典範、議院法、貴族院令、衆議院選挙法、会計法
35	1889-2	大日本帝国憲法皇室典範傍訓略解*	生稲道藏編	梶田文敬堂	東京	131p：19cm	附：帝国議会及会計法
36	1889-2	大日本帝国憲法俗解*	—	東京出版	東京	47p：18cm	朝野2月13日④
37	1889-2	大日本帝国憲法俗解*	松林孝純著	北沢活版所	東京	39p：19cm	附：大赦令
38	1889-2	大日本帝国憲法俗解*	依田平三郎著	高岡安太郎、落合留次郎	東京	66p：17cm	
39	1889-2	大日本帝国憲法註解*	江口三省著	北辰館東雲堂	大阪	67p：18cm	
40	1889-2	大日本帝国憲法註釈：傍訓*	白江廷太郎著	岡島宝文館	大阪	109p：19cm	
41	1889-2	大日本帝国憲法俗解：一名憲法親父問*☆	—	やまと新聞社	東京	1冊：22cm	やまと新聞719号附録
42	1889-2	大日本帝国憲法問答義解*	神代良太著	浜本明昇堂	大阪	230p：19cm	附：議院法、衆議院議員選挙法、会計法、貴族院令
43	1889-2	大日本帝国憲法略解：鼈頭註訳*	蒲生俊著	小川尚栄堂	東京	92p：18cm	
44	1889-2	大日本帝国傍訓憲法並附則*	本城松之輔訓	本城松之輔	東京	72p：19cm	
45	1889-2	通俗憲法大意：一名・憲法早わかり*	辰巳小次郎著	成文堂	東京	78、71p：18cm	
46	1889-2	通俗大日本帝国憲法註解：傍訓*	土屋弥十郎著	高山房	東京	30p：19cm	
47	1889-2	通俗大日本帝国憲法註解*	三井新治郎著	金桜堂	東京	100p：19cm	
48	1889-2	通俗帝国憲法釈義*	生地寅之助編	文官受験予修学会	東京	77p：18cm	朝野2月15日広告か
49	1889-2	通俗帝国憲法註解*	三井新治郎著、肥田健吉問	金桜堂	東京	100p：19cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、会計法、貴族院令

50	1889-2	帝国憲法†	平松福三郎編	明治法律学校講法会	東京	21p ; 18cm	『法律政治講義録』号外
51	1889-2	帝国憲法：傍訓*	—	小説館	東京	127p ; 13cm	附：衆議院議員撰拳法、會計法
52	1889-2	帝国憲法：英独参照*†	杉本勝二郎編	東壁堂	名古屋	96p ; 19cm	附：関係法律書
53	1889-2	帝国憲法：傍訓*	高島教道編	駸々堂	大阪	33、43、16p ; 18cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
54	1889-2	帝国憲法：傍訓・鼈頭字解*†	西川正英編	北尾禹三郎	大阪	92p ; 18cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
55	1889-2	帝国憲法及附帶法*	飯尾次郎三郎編	池善平	金沢	66p ; 18cm	
56	1889-2	帝国憲法諺解：各国比照*	菅劣三著、磯部貞八郎閱	菅劣三	大垣	70p ; 18cm	
57	1889-2	帝国憲法俗解*	本城松之輔著	同盟書肆	東京	72p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
58	1889-2	帝国憲法俗解：傍訓*	馬場寿編	最上堂	東京	102p ; 12cm	
59	1889-2	帝国憲法註解及附属法令釈義*	市岡正一編	博行館	東京	148p ; 19cm	『法令解釈』第2号
60	1889-2	徳義憲法論*	合川正道著	牧野善兵衛	東京	70p ; 19cm	
61	1889-2	日本憲法註釈：各国憲法参照*	松本謙堂著	積善館	大阪	158p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
62	1889-2	日本憲法註釈並附属法律*	蟻川堅治述	小林喜右衛門など	東京	83、73p ; 19cm	
63	1889-2	日本帝国憲法*	白江廷太郎編	岡島宝文館	大阪	184p ; 12cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
64	1889-2	日本帝国憲法：傍訓*	藤谷虎三訓	盛業館	大阪	34p ; 13cm	
65	1889-2	日本帝国憲法義解*	福井淳著	興法舎	大阪	220、84p ; 19cm	
66	1889-2	日本帝国憲法釈義*	水戸篤敬著	博愛堂	大阪	234p ; 18cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令
67	1889-2	日本帝国憲法詳解：鼈頭詳解*	外川秀治郎著	鹿田静七	大阪	79p ; 19cm	
68	1889-2	日本帝国憲法註釈*	植山新次郎著	盛業館	大阪	111p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、會計法、貴族院令註釈
69	1889-2	日本帝国憲法註釈：鼈頭傍訓*	広岡宇一郎著	梅原亀七	大阪	53、18p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰拳法、貴族院令、會計法
70	1889-3	憲法論：大日本帝国憲法註釈*◇	丸山名政著	尚成堂	東京	93、64p ; 19cm	附：議員法ほか朝野2月12日④

71	1889-3	大日本憲法附屬法令注釈*	鈴木漸吉著	敢進堂	大阪	201p；19cm	
72	1889-3	大日本帝國憲法*	—	東京出版	東京	123、100p；16cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、皇室典範英文併記
73	1889-3	大日本帝國憲法解説：傍訓*	九岐晰著	此村欽英堂	大阪	119p；18cm	附：議院法、衆議院議員選挙法、會計法、貴族院令
74	1889-3	大日本帝國憲法義解：各国参照*	小西巖次郎著、樋山広業関	宝文軒	大阪	264p；19cm	附：議院法、衆議院議員選挙法、會計法、貴族院令
75	1889-3	大日本帝國憲法講義*	和田文次郎著	雲根堂	金沢	239p；19cm	
76	1889-3	大日本帝國憲法釈義*☆	—	東京公論社	東京	19p；25cm	『東京公論』第376号附録
77	1889-3	大日本帝國憲法釈義*	樋山広業著	岡島宝文館	大阪	239p；19cm	附：附屬法
78	1889-3	大日本帝國憲法詳解：欧米各国対比参照	城数馬著	共和書店	東京	1冊；19cm	附：議院法詳解、衆議院議員選挙法詳解、衆議院議員選挙法附録、會計法詳解、貴族院令詳解、皇室典範
79	1889-3	大日本帝國憲法正解：各国参照*	小野梓山述、藤本英資記	津田藤助	大阪	252p；19cm	新世界第17号に広告
80	1889-3	大日本帝國憲法説明*	中野省吾著	君忠所	東京	182p；19cm	憲法雜誌第5号に紹介朝野2月16日④ 正価38銭だが、25日までに申し込むと1割引 東京学館独修部は3月20日以前に学費を3ヶ月分納入した者に本書を無代価で通送（絵入2月22日④）
81	1889-3	大日本帝國憲法俗解*	中野了随著	永唱堂	東京	201p；18cm	附：議院法、衆議院選挙法、會計法、貴族院令
82	1889-3	大日本帝國憲法註解*	川合真著、星野直校	東涯堂	東京	73p；18cm	
83	1889-3	大日本帝國憲法註釈*	井土経重著、磯部四郎訂	永唱堂	東京	506p；18cm	朝野2月19日付③
84	1889-3	大日本帝國憲法註釈*	殿木三郎著、高梨哲四郎関	鈴木金次郎	東京	89p、39-100；17cm	附：皇室典範、議院法、衆議院選挙法、會計法、貴族院令
85	1889-3	大日本帝國憲法並附屬法律*	小坂作平編	雲根堂	金沢	119p；12cm	
86	1889-3	大日本帝國憲法附屬法精義*◇	薩埵正邦、上林敬次郎、吉田佐一郎共著	時習社、岡島宝文館	東京、大阪	452p；19cm	

87	1889-3	大日本帝国憲法問答*	中村暢著	駸々堂	大阪	429p ; 19cm	
88	1889-3	大日本傍訓帝国憲法*	岡田常三郎編	書籍行商社	東京	53p ; 17cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、貴族院令、會計法
89	1889-3	通俗帝国憲法註釈*	増田隼多著	幸玉堂	東京	140p ; 18cm	
90	1889-3	帝国憲法：傍訓	都村源吉編	丸亀活版所	丸亀	104p ; 18cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令
91	1889-3	帝国憲法解義*	山崎恵純著	斯馨館	京都	142p ; 19cm	
92	1889-3	帝国憲法義解*	壁谷可六、上野太一郎著	同勞舎出版部	東京	362p ; 19cm	
93	1889-3	帝国憲法義解*	佐藤治三郎、松井誠造著	同盟書房	東京	230、75p ; 19cm	
94	1889-3	帝国憲法義解*	高島教道著	駸々堂	大阪	378p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令、皇室典範
95	1889-3	帝国憲法釈義*	小松八郎著	文港堂	高岡	88p ; 18cm	
96	1889-3	帝国憲法正義：各国憲法対照*	竹村欽次郎訳	神戸甲子二郎	東京	473p ; 19cm	
97	1889-3	帝国憲法説明：通俗問答*	川原梶三郎著	兎屋	大阪	178p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令
98	1889-3	帝国憲法註解*	伊藤哲三編	集書堂	東京	95p ; 18cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令
99	1889-3	帝国憲法註解*	森岡貞義著	中村中金堂	大阪	211p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令 初版：89年2月刊 訂2版
100	1889-3	帝国憲法註釈*	安江静著	赤松市太郎	大阪	297p ; 18cm	附：議院法ほか
101	1889-3	帝国憲法はやわかり*	—	榊原文誠堂	東京	98p ; 18cm	附：議院法、選挙法、會計法、貴族院令、皇室典範、大赦令
102	1889-3	帝国憲法問答*	中村暢著	大淵壽	大阪	429p ; 20cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令、皇室典範
103	1889-3	帝国憲法問答詳解：各国比較*	福井淳著	岡本仙助、赤志忠七	大阪	205p、p12-65 ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令
104	1889-3	帝国憲法要義*	藤井公道、安元阿万著	団々社	東京	144、84p ; 19cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、會計法、貴族院令、皇室典範
105	1889-3	日本憲法詳解：欧米各国憲法対照*	大島啓蔵著、飯田宏作校	駒崎林三	東京	166、82p ; 19cm	郵便2月16日④
106	1889-4	憲法講義*	磯部四郎述	同盟書館	東京	456p ; 20cm	

107	1889-4	憲法発布大典賑*	清水義郎編	牧金之助	東京	12丁：18cm	和装
108	1889-4	政海の波：憲法講談. 上篇*	雨香散史著	駸々堂	大阪	120p：19cm	
109	1889-4	大家演説集*	鈴木久蔵編	鈴木久蔵	東京	79p：19cm	井上角五郎「如何にして憲法を完全にすべきや」など
110	1889-4	大同団結名士の演説*	田中正備編	大同館	東京	145p：19cm	井上角五郎「如何にして憲法を完全にすべきや」など
111	1889-4	大日本帝国憲法☆	—	伊勢新聞社	津	79p：19cm	附：皇室典範、附属法令 伊勢新聞附録
112	1889-4	大日本帝国憲法：各国対照*◇	塩入太輔、栗屋竜蔵編著	博聞社	東京	92p：19cm	附：英文憲法
113	1889-4	大日本帝国憲法及附属法律*	堀内吉正編	堀内政業	岩手県 仁王村	42p：19cm	
114	1889-4	大日本帝国憲法義解* #◇	金山尚志、金子辰三郎著、岡村輝彦校閲	横浜法律学校	横浜	360p：19cm	附：皇室典範、議院法、衆議院選挙法、会計法、貴族院令 郵便2月16日④ 朝野2月20日③
115	1889-4	大日本帝国憲法詳解*◇	小松謙次郎著、横田秀雄校	辻岡文助	東京	105p：18cm	
116	1889-4	大日本帝国憲法要論*◇	樋口保著、岸本辰雄校	丸善、明法堂	東京	281p：18cm	
117	1889-4	大日本帝国憲法略解*	伊藤祐紀著、永松木長関	共盛社	京都	155p：17cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、会計法、貴族院令
118	1889-4	通俗大日本帝国憲法註釈*◇	高田早苗著	梅原忠蔵	大阪	180p：19cm	東京出版会社蔵版 朝野2月13日④
119	1889-4	通俗大日本帝国憲法註釈問答*	加藤伝次著	共和書店	東京	485p：19cm	
120	1889-4	帝国憲法及附帯法注解：鼈頭・傍訓*	飯尾次郎三郎編	池善平	金沢	114p：18cm	
121	1889-4	帝国憲法義解*◇	伊藤博文著	国家学会	東京	114p：25cm	
122	1889-4	帝国憲法篇*	有賀長雄著	牧野善兵衛	東京	224p：20cm	憲法雜誌第10号に紹介
123	1889-4	帝国憲法要義*	江木衷、山田喜之助、渋谷槌爾著	六法館	東京	179、86p：20cm	法理精華第11号に紹介
124	1889-4	日本憲法正解*	山谷虎三著、熊野敏三関	日本書籍	東京	434p：18cm	附：皇室典範并附属四法令釈義 朝野2月19日③
125	1889-4	平穩村紀元節憲法発布祝宴会記事	森隆英、山本慎治郎著	森隆英、山本慎治郎	長野県 穩村	37p：19cm	
126	1889-5	大日本帝国憲法*◇	加藤定興編	中西嘉助	京都	182p：19cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、会計法、会計規則、会計検査院法、貴族院令

127	1889-5	大日本帝国憲法積義*	三輪鑒藏編、 樋山広業閱	吉岡平助	大阪	252p : 19cm	附：皇室典範、議院法、 衆議院議員選挙法、会 計法、貴族院令
128	1889-5	大日本帝国憲法精義*	佐藤佳三郎著、 星野憲治、有 賀武雄閱	環翠堂	名古屋	244p : 18cm	
129	1889-5	大日本帝国憲法評論*◇	町田忠治著	東京出版	東京	183p : 18cm	
130	1889-6	大日本帝国憲法解釈 待論*◇	石川三良介著	石川三良介	京都府 加悦町	97p : 18cm	
131	1889-6	大日本帝国憲法述義*◇	井上操著	岡島宝文館	大阪	419、54p : 19cm	
132	1889-6	日本帝国憲法*	—	山形印刷	山形	72p : 20cm	附：議院法、衆議院議 員選挙法、会計法、貴 族院令
133	1889-7	大日本帝国憲法*	岩田静編	岩田静	和歌山	45p : 21cm	附：議院法、衆議院議 員選挙法、会計法、貴 族院令
134	1889-8	憲法及行政法要義*	スタイン述、 河島醇編	集成社	東京	192p : 20cm	
135	1889-8	帝国憲法議院法選挙 法汎論*	境沢弥太郎著、 熊野敏三閱	博聞社	東京	323p : 20cm	
136	1889-9	国会の道志るべ：帝 国憲法*	岡田常三郎編	書籍行商社	東京	11p : 18cm	
137	1889	各国比較帝国憲法問 答詳解*	福井淳著	岡本仙助	大阪	427p : 20cm	訂補
138	1889	憲法義解*	—	東京新報社	東京	431p : 18cm	
139	1889	憲法行政学。第1、2 号	下里子編	憲法行政学 社	東京	1冊（合本）： 23cm	
140	1889	憲法雑誌：講壇改進、 第1-20号	憲法雑誌社	東京	東京	1冊： 22cm	
141	1889	憲法発布式拝観概況*		千葉県	千葉町	49p : 19cm	
142	1889	憲法論。第1集*	高田早苗述、 山沢俊夫編	—	東京	93p : 21cm	
143	1889	皇典講究所講演。第 6		皇典講究所	東京	66p : 19cm	丸山正彦「憲法史論」 など
144	1889	大日本帝国憲法：英 独参照	杉本東洋編	杉本東洋	—	117p : 19cm	
145	1889	大日本帝国憲法* † ◇	関直彦編	三省堂	東京	158p : 19cm	学情では1889年2月刊 附：議院法、衆議院議 員選挙法 郵便2月16日④
146	1889	大日本帝国憲法：各 国憲法対照比論* †	神山亨太郎編	松成堂	東京	16、58、71p : 18cm	附：議院法、衆議院議 員選挙法、同附録、会 計法、貴族院令

147	1889	大日本帝国憲法解説 釈：鼈頭傍訓*	中村暢著	—	—	118p：18cm	附：議院法、衆議院議員撰挙法、会計法、貴族院令、皇室典範
148	1889	大日本帝国憲法講義*	関直彦述、首藤貞吉編	東京専門学校	東京	101p：21cm	東京専門学校司法科講義録
149	1889	大日本帝国憲法講義	穂積八東述	法律研究会	東京	1冊 (1-6合本)：20cm	
150	1889	大日本帝国憲法釈義*	堀三友、清永央共著	共盛社	京都	309p 図版：19cm	
151	1889	大日本帝国憲法詳解：欧米各国対比参照*◇	城数馬著	共和書店	東京	547p：20cm	奥付では3月発行 朝野2月17日附録 定価2円のところ、予約販売は1円20銭
152	1889	大日本帝国憲法正解◇	園田賈四郎著	博文館	東京	244p：19cm	新撰百科全書：第4編、再版
153	1889	大日本帝国憲法正解◇	水野正香著	大淵壽	大阪	—	
154	1889	大日本帝国憲法精義：全*	藤埴正邦著	時習社	東京	119p：19cm	朝野2月19日③ 2月中に代金を添えて 注文すると正価45銭の ところを特価35銭で販売
155	1889	大日本帝国憲法註釈*◇	磯部四郎著	阪上半七	東京	354p：20cm	朝野2月12日④
156	1889	大日本帝国憲法註釈*	坪谷善四郎著	博文館	東京	813p 図版：19cm	時事2月11日⑦
157	1889	大日本帝国憲法問答註釈：全*#	織田謙著 西村時輔校閲	田中太右衛門	大阪	236p 図版：19cm	訂再版
158	1889	通俗憲法大意	辰巳小次郎著	成文堂	東京	159p：19cm	
159	1889	通俗大日本帝国憲法釈義*◇	渡辺亨著	東京出版会社	東京	168p：19cm	朝野2月13日④
160	1889	帝国憲法*	渋谷槌爾述	東京法学院	東京	131p：21cm	
161	1889	帝国憲法	穂積八東述	英吉利法律学校	東京	136p：21cm	英吉利法律学校第3年級講義録
162	1889	帝国憲法：各国憲法参照*†	湯浅誠著	同盟書館	東京	113p：19cm	学情では1889年2月刊 並附属法律 朝野2月12日③の広告か
163	1889	帝国憲法：議院法、会計法、撰挙法、貴族院令*	西川正英編	北尾禹三郎	大阪	78p：19cm	
164	1889	帝国憲法解*	今村長善著	今村長善	東京	90p：17cm	朝野2月19日③
165	1889	帝国憲法講義*	有賀長雄述	明治法律学校講法会	東京	518p：19cm	明治法律学校講法会第1期講義録
166	1889	帝国憲法皇室典範義解*	伊藤博文著	金港堂など	東京	200p：20cm	国家学会蔵版

167	1889	帝国憲法正解*	北村三郎著	石川商店	東京	100p:20cm	朝野 2月20日④
168	1889	帝国憲法正解:英仏 独米普対照*	辰巳小二郎著	原亮三郎	東京	382p:19cm	憲法雑誌第6号に紹介
169	1889	内外臣民公私権考	井上毅著	哲学書院	東京	64p:19cm	憲法衍義:1
170	1889	日本憲法註釈:各国 憲法参照*	松本仁吉著	積善館	大阪	158p:19cm	訂3版
171	1889~ 90	新演説. 第1集 (第1-5号)	伊東武彦編	大成館	東京	1冊(合本: 19cm)	井上角五郎「如何にして憲法を完全にすべきや」、福慶生「憲法發布後に於ける日本人の注意」、黙笑堂学人「憲法をして其の効を顕はしむるは人民の實力」、加藤政之助「憲法上の権利を論ず」、肥塚龍「憲法国の人民」など
172	1889~ 90	新演説. 第3集(第 10-13号、号外)	伊東武彦編	大成館	東京	1冊(合本: 19cm)	小川三千三「現行憲法を改正せずんば憲法を如何せん」、肥塚龍「条約改正と憲法」
173	1890-8	帝国議会上下院議員 名鑑:附・大日本憲 法、議院法、選挙法 *	加藤孫治郎編	万字堂	東京	99p:15cm	
174	1890-8	日本憲法・議院法・ 撰挙法・会計法・貴 族院令註釈*	坪谷善四郎著	博文館	東京	802p:20cm	日本法典全書:第3編 附:日本憲法史英仏米 普四国憲法・会計法補 足註解
175	1890	憲法原理*	谷口留五郎著	博聞館	東京	124p:20cm	政治学経済学法律学講 習全書
176	1890 ?	憲法講義	副島義一講述	明治法律学 校	東京	392p:22cm	
177	—	英訳帝国憲法	原弥一英訳	英文憲法学 会	東京	—	朝野 2月7日付附録
178	—	憲法解釈之批評	高木清次郎著	遵法社、精 法社	東京	—	朝野 2月12日③
179	—	帝国憲法正解	元田肇註釈	東京出版会 社	東京	—	朝野 2月13日④
180	—	憲法説明問答	—	東京出版会 社	東京	—	朝野 2月13日④
181	—	通俗大日本憲法問答	大久保常吉	九春堂	東京	—	絵入 2月19日④
182	—	帝国憲法詳解	今村長善著	—	—	—	朝野 2月19日③
183	—	日本憲法釈疏	光妙寺三郎著	明法堂	東京	—	朝野 2月19日③
184	—	帝国憲法	桜所先生著	東洋法理社	東京	—	朝野 2月20日④
185	—	各国憲法対照帝国憲 法説要	—	東京法学社	東京	—	絵入 2月20日④

2) 書店

これだけの憲法関連本が出版されると、旧刊本の再刊や、外国憲法についての本も刊行される³⁵⁾。

小野梓著『国憲汎論』1883年～1886年刊

メール著、島田三郎、乗竹孝太郎訳『英国憲法史』1883年～1888年刊

辰巳小二郎著『万国現行憲法比較』1888年8月刊

天野為之、石原健三著『英国憲法精理』1889年2月刊

このうち辰巳の『万国現行憲法比較』は、12日から20日間、定価70銭のところ42銭に割引すると版元の哲学書院が広告している³⁶⁾。このような期間限定の割引も珍しくない。春陽堂は11日から3日間27冊の自社出版本を2割引にするというし、天野、石原の『英国憲法精理』は東京府内であれば25日まで1円のところを80銭に値引きしたうえ、購入者には小冊子『帝国憲法』を進呈するという³⁷⁾。法学書専門の時習社でも憲法発布と開業1周年を記念して、11日から月末まで特別割引、博聞本社、分社では12日から1週間、予約出版、定期刊行物を除き特別割引、博文堂書店は、自社発行本を1割から4割で販売すると広告していた³⁸⁾。ちなみに植木枝盛は上記の4冊をすべて1889年1月27日から3月13日までの間に購入している³⁹⁾。

おわりに

ここまで錦絵と石版画、関連本を見てきたわけだが、一見すると出版業界では憲法バブルとでもいふべき状況が生まれている。しかし売れ行きに関しては調べる手段がない。関連本を購入すると考えられるのは、東京で法律を学ぶ書生たち、学校、貸本屋そして地方在住の独学者たちだろう。片っ端から本を買い込んでいく植木枝盛は特異な存在であって、かれの購買行動を一般化するこ

とはむずかしい。錦絵と石版画に関しても、はたして憲法を無三四流ととらえる「中等以下の社会」のんびとが買ったのだろうか疑問が湧くのである。かれらがお金を出して買うとすれば、団菊左の役者絵(図7 = No.34)か芸者の絵姿(図8 = No.35)、あるいは関係した山車が描かれているものだったのではないだろうか。

しかしこんな報告もある。越後の山村で戸長をつとめていたとある人物は、帝国憲法を印刷した美装の官報号外を求め、額縁に仕立てて床の間に掲げ、毎朝礼拝し、十数年にわたって勅語と条文を朗読することを日課としていたという⁴⁰。錦絵も石版画も購買層は、地方から上京してくる官吏や政治家、地方の有力者たちであったのかもしれない。そしてかれらはまた、関連本の購読者であったと考えられる。

しかし鳳輦に帽子を振り、アカペラで唱歌を歌った小学生たちが楽しむ読物も絵物語も出されてはいない。かれらはいまはまだ脇役にすぎない。

註

- 1) 学海日録研究会編『学海日録』1889年2月10日条、11日条(第7巻、岩波書店、1990年)。
- 2) 『岡村司日記』1889年2月9日条、11日条(立命館大学法学部所蔵)。
- 3) 木下尚江「政治の破産者・田中正造」p.380(初出『中央公論』1933年4月号、のち『現代日本文学大系9 徳富蘆花・木下尚江』、筑摩書房、1985年所収)。長谷川時雨『旧聞日本橋』p.98(岩波文庫、2000年)。
- 4) 小西四郎『錦絵 幕末明治の歴史10 憲法発布』(講談社、1977年)。
- 5) 東京大学史料編纂所錦絵データベース、国立国会図書館貴重書画像データベース、早稲田大学図書館古典籍総合データベース、静岡県立中央図書館デジタルライブラリー、東京大学法学部附属近代日本法政史料センター編『明治新聞雑誌文庫所蔵図書・資料類目録』(東京大学出版会、1983年)、『横浜開港資料館所蔵 瓦版・浮世絵目録(平成8年12月現在)』(横浜開港資料館、1997年)。
- 6) 橋本健一郎ほか編『江戸・東京モダン—浮世絵に見る幕末・明治期の世相—』(東日本鉄道文化財団、1998年)。
- 7) 河野実ほか編『描かれた明治ニッポン～石版画〔リトグラフ〕の時代～』展図録、神戸市立博物館編『描かれた明治ニッポン～石版画〔リトグラフ〕の時代～』解説図録〈研究編〉(ともに描かれた明治ニッポン展実行委員会、2002年)。このほか

『王家の肖像—明治皇室アルバムが始まり—』（神奈川県立歴史博物館、2001年）も参考にした。

- 8) 『郵便報知新聞』（復刻版、柏書房、1989年一、以下同）1889年2月16日付第4面。
- 9) 『朝野新聞』（縮刷版、ペリかん社、1981—84年、以下同）1889年2月12日付第4面。
- 10) 販売者は小口信明、『朝野新聞』1889年2月22日付第4面。
- 11) 『時事新報』（マイクロフィルム、以下同）1889年2月16日付第3面。
- 12) 『明治天皇紀』第7、1889年2月11日条、12日条（吉川弘文館、1972年）。『朝野新聞』1889年2月11日付附録。
- 13) 東京近傍の師範学校生徒は、修学旅行として上京することを勧められていたらしい（『都新聞』1889年2月7日付第2面）。日本鉄道会社、両毛鉄道会社、水戸鉄道会社は連名で、上野までの往復切符を2割5分引きにすると広告していた（『絵入朝野新聞』2月9日付第4面）。また見物に上京する人が多く、いつもは上等で70銭ほどの宿泊料が1円20銭以上にも高騰していると新聞は伝えていた（『都新聞』2月8日付第4面）。
- 14) 鈴木博之監修『皇室建築 内匠寮の人と作品』p.40（建築画報社、2005年）。
- 15) 前掲『皇室建築 内匠寮の人と作品』p.55。
- 16) 『朝野新聞』1889年2月3日付第2面。
- 17) 『朝野新聞』1889年2月2日付第1面。
- 18) 『絵入朝野新聞』（東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵マイクロフィルム、以下同）1889年2月5日付第1面。
- 19) 『絵入朝野新聞』1889年2月14日付第2面。
- 20) 『時事新報』（復刻版、柏書房、1994年一、以下同）1889年2月10日付第5面。
- 21) 『都新聞』1889年2月7日付第1面、2月8日付第2面、2月10日付第1面。
- 22) 『絵入朝野新聞』1889年2月5日付第1面。
- 23) 『都新聞』1889年2月8日付第2面。
- 24) 『都新聞』1889年2月10日付第2面では、通新石町は歳徳神、連雀町は熊坂長範に変っている。
- 25) 『都新聞』1889年2月10日付第2面。なお本郷区、下谷区、本所区は不明となっている。
- 26) 『都新聞』1889年2月7日付第2面。
- 27) 『都新聞』1889年2月7日付第2面。
- 28) 前掲『学海日録』1889年2月10日条。
- 29) 『東京芸術大学百年史 東京音楽学校篇第1巻』pp.52-58（音楽之友社、1987年一）。
- 30) 『時事新報』1889年2月10日付第4面、2月11日付第6面。なお『团团珍聞』（複製版、本邦書籍、1981—85年）第689号、1889年2月23日発行に紅白の絹でハッピーをこしらえるという投稿がある（「憲法発布式」）。
- 31) 『都新聞』1889年2月9日付第1面。

- 32) 『都の花』第9号(1889年2月17日発行)。なおこの小説の挿画は小林清親である。
- 33) 明治政治史研究会編『憲法解釈資料：大日本帝国憲法発布当時の一般憲法思想を窺ふべき逐条憲法解釈文献』ナウカ社、1936年。
- 34) 『憲法雑誌』は執筆陣の顔ぶれから見ると大隈系。第1号から第23号まで東京大学明治新聞雑誌文庫所蔵。『憲法新誌』は『東京輿論新誌』第377号(1889年1月9日発行)に第1号の広告と紹介がある。なお『憲法新誌』は第2号のみ明治新聞雑誌文庫所蔵。ほか天理大学図書館、日本大学経済学部、同志社大学人文科学研究soに所蔵。
- 35) 『朝野新聞』1889年2月5日付第4面、12日付附録、16日付第4面。
- 36) 『朝野新聞』1889年2月12日付附録。
- 37) 『時事新報』1889年2月11日付第6面、『朝野新聞』1889年2月16日付第4面。
- 38) 『朝野新聞』1889年2月9日付第4面、10日付第3面、12日付第3面。
- 39) 『購球書日記』(『植木枝盛集』第9巻、岩波書店、1991年)。
- 40) 渡辺幾治郎「日本帝国憲法発布の回顧」(『経済時代』第19巻第6号、1954年6月)。

本稿は、科学研究費基盤研究C(課題番号17520453)「占領期の憲法論議」による成果の一部である。